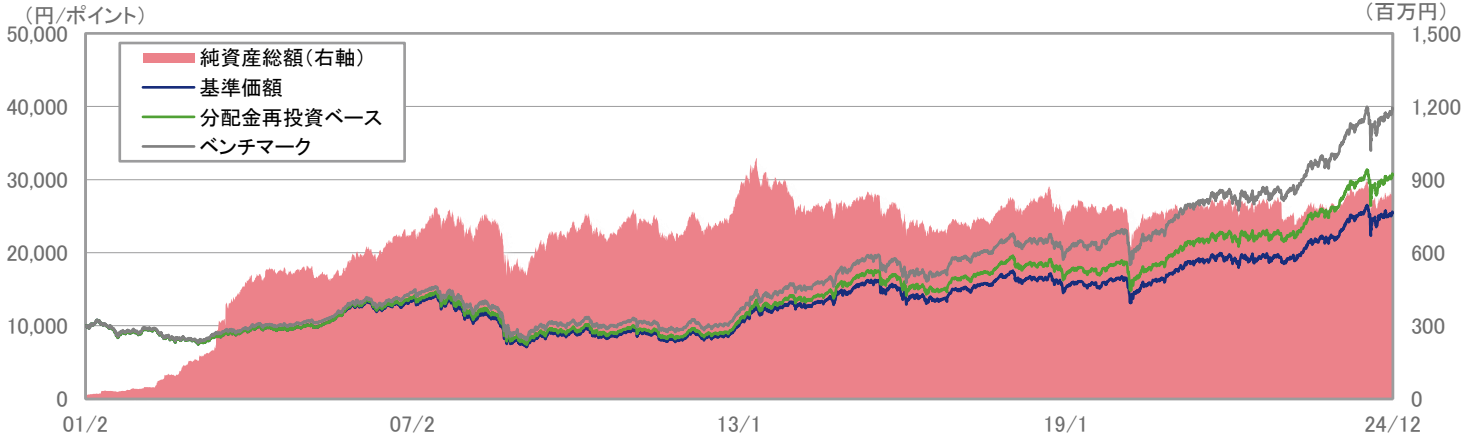


JA資産設計ファンド(積極型) (基準日:2024年12月30日) 販売用資料

設定日:2001年2月20日 償還日:無期限 決算日:11月16日(休業日の場合は翌営業日) 追加型投信/内外/資産複合

■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	30,662	-	39,665.97	-	-
過去1ヵ月	29,966	2.32	38,467.60	3.12	-0.79
過去3ヵ月	29,045	5.57	37,460.43	5.89	-0.32
過去6ヵ月	30,640	0.07	38,900.30	1.97	-1.90
過去1年	26,237	16.86	33,478.87	18.48	-1.62
過去3年	22,668	35.26	28,341.31	39.96	-4.70
設定日来	10,000	206.62	10,000.00	296.66	-90.04

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	25,474	24,896	+578
純資産総額 (百万円)	850	828	+22

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	26,510	2024年7月11日
設定来安値	7,097	2009年3月10日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

	ファンド	基本配分 比率	差異
JA日本株式マザー	45.81%	45.00%	0.81%
JA日本債券マザー	14.79%	15.00%	-0.21%
JA海外株式マザー	24.62%	25.00%	-0.38%
JA海外債券マザー	10.00%	10.00%	0.00%
短期資産等	4.79%	5.00%	-0.21%
合計	100.00%	100.00%	-

※1 比率は純資産総額対比です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2024/11/18	400
2023/11/16	360
2022/11/16	80
2021/11/16	270
2020/11/16	200
2019/11/18	180
設定来合計	3,040

※ 1万口当たりの実績です。

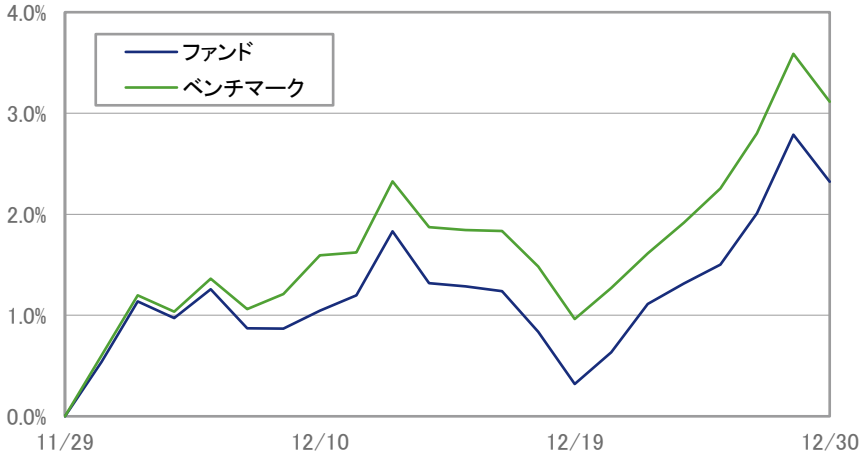
■ 運用概況

当月末の基準価額は、25,474円(前月比+578円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+2.32%となり、ベンチマークの月間騰落率は+3.12%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 12月の市場動向と今後の運用方針

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

(単位:円)

	基準価額
2024年12月30日	25,474
2024年11月29日	24,896
増減	578
マザーファンド要因	609
JA日本株式マザー	436
JA日本債券マザー	-4
JA海外株式マザー	98
JA海外債券マザー	78
その他要因	-31
要因合計	578

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

運用状況

ベンチマークの月間リターンは、前月末対比+3.12%となりました。

国内株式市場については、月前半は、米国による対中半導体規制において日本が除外されたことに加え、円安が進展したことを背景に上昇しました。月後半は、大手自動車会社のROE(自己資本利益率)目標に関する報道等が好感されたことから上昇し、月間でも上昇しました。米国株式市場については、月前半は、IT大手や半導体大手を中心に上昇する場面もあったものの、長期金利が上昇したことを背景に、横ばい圏で推移しました。月後半は、予想対比較調な物価関連指標を受けて上昇する場面も見られたものの、12月米連邦公開市場委員会(以下「FOMC」という)において公表された経済・政策金利見通しやパウエル議長の記者会見の内容が予想対比タ力的であったことに加え、月末・年末のリバランスフローによる需給環境悪化から下落し、月間でも下落しました。欧州株式市場については、月前半は、中国における予想対比堅調な経済指標や追加景気刺激策の発表を背景に上昇しました。月後半は、欧州中央銀行(以下「ECB」という)高官のタカ派な発言やトランプ次期米大統領が主張する追加関税政策の欧州経済に対する悪影響が意識されたことなどを背景に下落し、月間でも下落しました。国内長期金利については、月前半は、米国長期金利の上昇を受けて上昇する場面もあったものの、日銀による早期追加利上げ期待の後退を背景に、横ばい圏で推移しました。月後半は、12月日銀金融政策決定会合において利上げ見送りが決定されたことに加え、植田総裁の会見がハト的であったことを受けて低下する場面もあったものの、米国長期金利の上昇を背景に上昇し、月間でも上昇しました。米国長期金利については、月前半は、物価関連指標の下げ渋りを受けて2025年の利下げ期待が後退したことや原油価格の上昇を背景に上昇しました。月後半は、12月FOMCにおいて25bpの利下げが決定されたものの、公表された経済・政策金利見通しやパウエル議長の記者会見の内容が予想対比タ力的であったことや、債務上限撤廃を主張するトランプ次期米大統領の発言を受けて将来の債務拡大が懸念されたことを背景に上昇し、月間でも上昇しました。独国長期金利については、月前半は、12月ECB理事会において25bpの利下げが決定されたものの、ラガルドECB総裁の会見が予想対比タ力的であったことや、米国長期金利の上昇を背景に上昇しました。月後半は、ECB高官のタカ派な発言や米国長期金利の上昇を受けて上昇し、月間でも上昇しました。為替については、ドルは月前半、日銀による早期追加利上げ期待の後退や米国長期金利上昇を背景に円安・ドル高となりました。月後半は、12月FOMCで25bp利下げが実施されたもののタカ派なスタンスが示されたことや、12月日銀金融政策決定会合で利上げが見送られ、円売り圧力が強まったことなどを背景に円安・ドル高となり、月間でも円安・ドル高となりました。ユーロは、月前半は、日銀による早期追加利上げ期待の後退や独国長期金利上昇を背景に円安・ユーロ高となりました。月後半は、独国長期金利が上昇したことに加え、12月日銀金融政策決定会合で利上げが見送られ、円売り圧力が強まったことなどを背景に円安・ユーロ高となり、月間でも円安・ユーロ高となりました。

ファンドの月間リターンは、前月末対比+2.32%(分配金再投資ベース)となり、12月末の基準価額は前月末比578円上昇の25,474円となりました。ベンチマーク対比のパフォーマンスについては、日本株式、海外株式のマザー超過リターン要因がマイナスとなったことなどから、-0.79%となりました。

今後の運用方針

- ・基本配分比率に基づき、各マザーファンドの組入れを行います。
- ・各マザーファンドの時価の変動により、基本配分比率からの乖離が一定幅以上となった場合には、リバランスを行います。

※運用担当者のコメントは12月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

■ 7ページおよび8ページの「主なリスクと費用」「留意事項」を必ずお読み下さい。

<運用担当者のコメント>

■ 今後の市場見通し

株式市場

日本:日本株式について、製造業の回復や堅調なインバウンド需要、為替の円安基調が企業業績の押し上げ要因となることが想定されるものの、円高進展に伴う前年度対比の企業業績悪化やグローバル景気の減速、過度な円安進展の影響にも留意が必要です。また、日銀の追加利上げ後においても、依然グローバルに見て相対的に緩和的な金融環境が継続しているものの、利上げによる国内景気への影響について注視が必要です。東証の株価純資産倍率(PBR)改善要請を受けた企業の株主還元姿勢強化の広がりは株価の支援材料になる一方、米国次期政権の動向及び国内政局に対する不透明感が意識されることから、日本株は横ばい圏での推移を見込みます。

米国:米国株式について、利下げペースおよび量的引き締め(QT)停止タイミングなどの金融政策やトランプ新政権の財政政策を巡る市場の思惑で、株価が一進一退となる変動性の高い展開を想定します。また、個人消費の急減速や銀行の信用不安、貸出基準厳格化に伴う資金繰り悪化および借り入れコストの上昇には留意が必要であり、企業間で格差が生じることが見込まれます。但し企業業績については、深刻な景気後退を見込まないことに加え、原材料価格・人件費の上昇による下押しが徐々に改善することや、自社株買いによるEPS(1株あたり利益)の下支えが期待できることから、底堅く推移する見込みです。かかる中、米国株は横ばい圏での推移を見込みます。

欧州:欧州株式について、域内の景気動向に弱さが見られるほか、物価や中国経済の動向にも引き続き注視が必要です。また、企業業績については循環的な回復が期待されるものの足元では大きな改善が見込めない点に加え、米中貿易摩擦や米国次期政権の動向が与える影響についても留意が必要です。株価収益率(PER)はECBによる利下げ進展期待が一定のサポートとなるものの、過去に資金流出が続いた投資家のポジション復元には時間を要することが想定されます。また、域内の政治・財政リスクの高まり、銀行の信用不安や貸出基準厳格化に伴う資金繰り悪化および借り入れコストの上昇には留意が必要です。かかる中、欧州株は横ばい圏での推移を見込みます。

債券市場

日本:国内長期金利については、日銀の見通しどおり個人消費が堅調に推移すると見込まれることや、日銀は現行の政策金利と中立金利に距離があるとの認識を示しており利上げ余地も相応にあると想定されることから、利上げ期待の高まりを背景に上昇を見込みます。国内超長期金利については、利上げ期待の高まりが金利上昇圧力になるものの、生保勢を中心とした押し目買いにより、横ばい圏での推移を見込みます。

米国:米国長期金利については、米国経済が堅調に推移する見込みである中、トランプ新政権による関税強化や移民抑制などの政策を通じたインフレ再燃への懸念や、財政赤字拡大懸念を背景とした債券需給の悪化などが金利上昇圧力となる一方で、利下げの進展や米銀を中心とした投資家需要の増加に加え、政策の不確実性を背景とした経済活動の鈍化が金利低下圧力になると想定します。米国長期金利は高止まりしつつも、見通し期間にかけては緩やかな低下を見込みます。

欧州:独国内長期金利については、ECBが域内の賃金・サービス価格の高止まりやエネルギー価格の再上昇を受けた物価高の長期化に対して懸念を示しているものの、今後もコア物価の上昇ペースが鈍化する中でECBによる利下げが進展することに伴い、低下を見込みます。

為替

ドル/円は、日銀の利上げや米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げの進展に伴い金融政策格差の縮小が予想されることから、円高・ドル安を見込みます。但し、米国長期金利に上昇圧力がかかる場面では、一時的にドル高圧力が強まる展開を見込みます。

ユーロ/円は、日銀の利上げやECBの利下げの進展に伴い金融政策格差の縮小が予想されることから、円高・ユーロ安を見込みます。

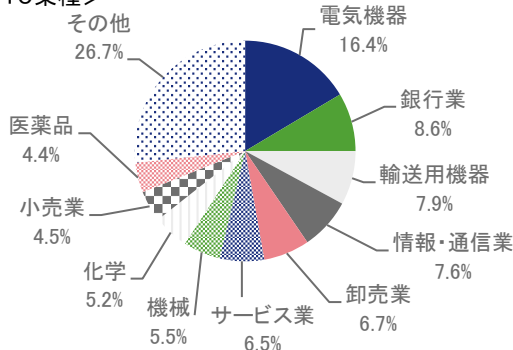
※運用担当者のコメントは12月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

<参考>各マザーファンドの状況

■ JA日本株式マザーファンド

※ 国内株式現物対比。

<組入上位10業種>



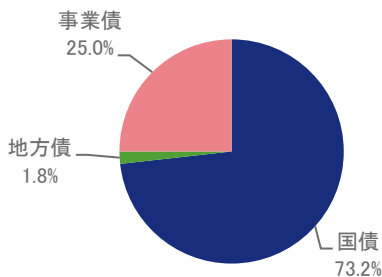
基準価額の推移



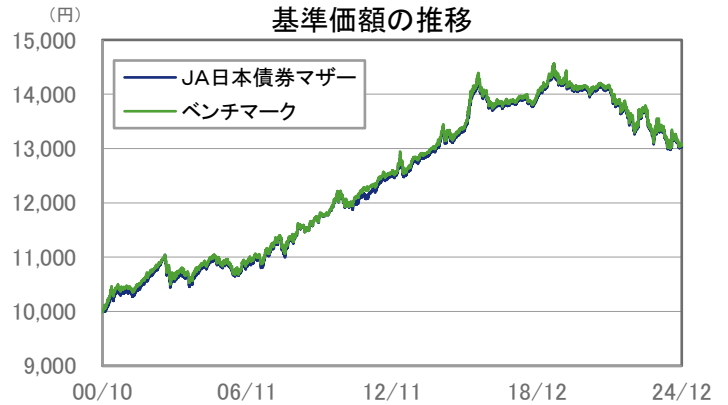
■ JA日本債券マザーファンド

<種別組入比率>

※ 国内債券現物対比。



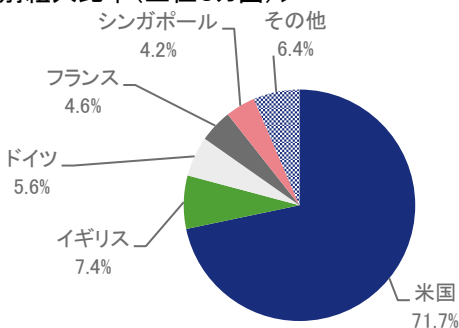
基準価額の推移



■ JA海外株式マザーファンド

※ 外国株式現物対比。

<国別組入比率(上位5カ国)>



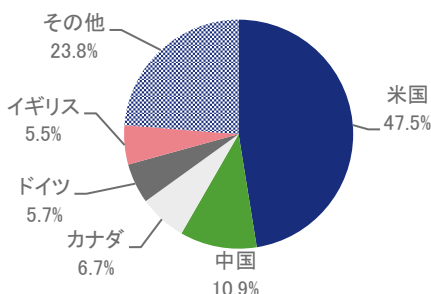
基準価額の推移



■ JA海外債券マザーファンド

※ 外国債券現物対比。

<国別組入比率(上位5カ国)>

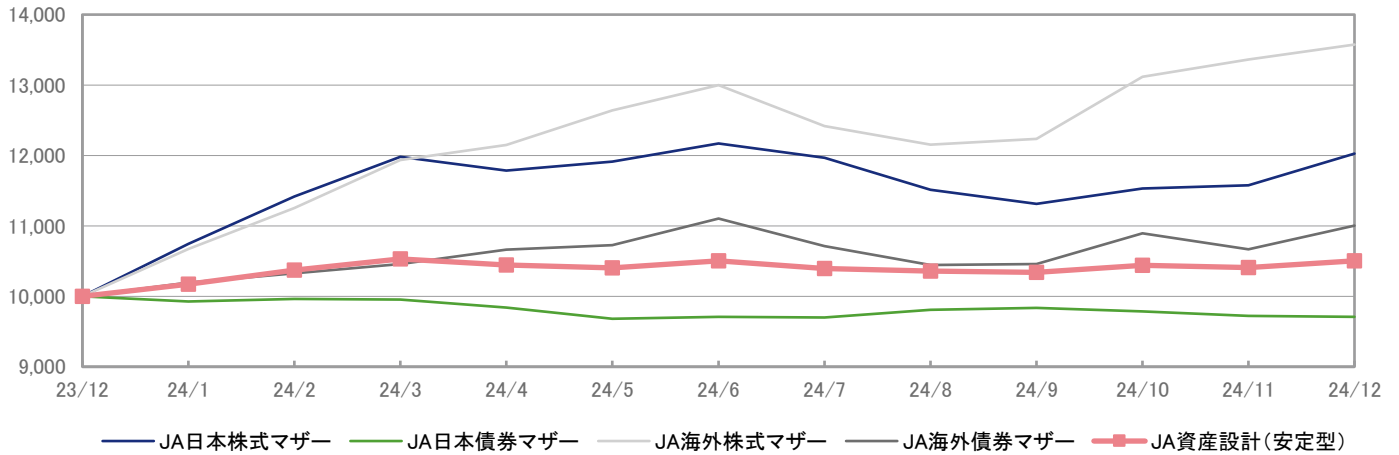


基準価額の推移

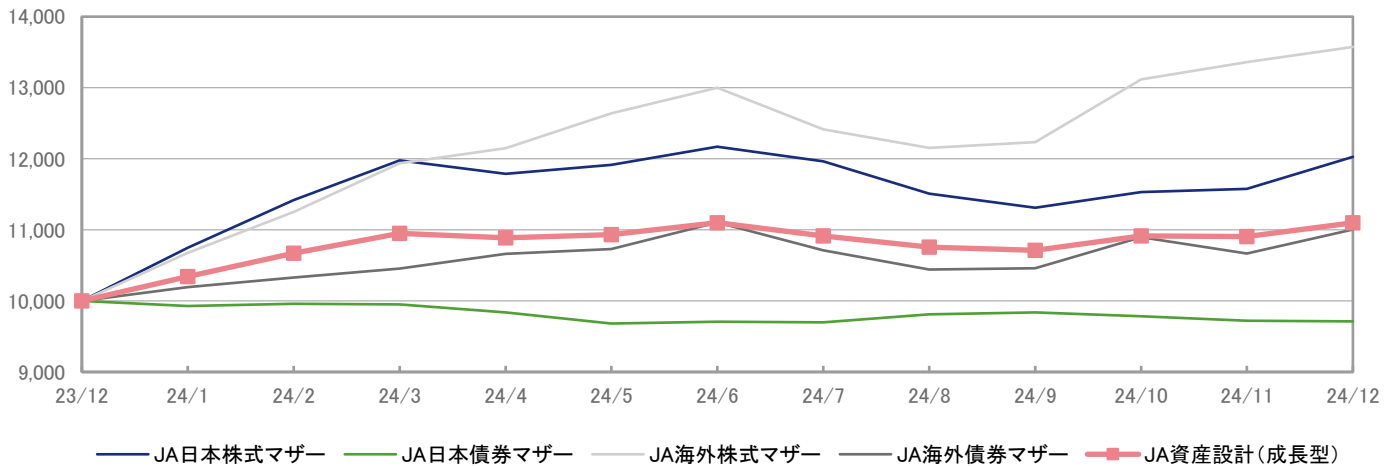


<参考>資産設計 各ファンドと各マザーファンドの基準価額の推移(過去1年)

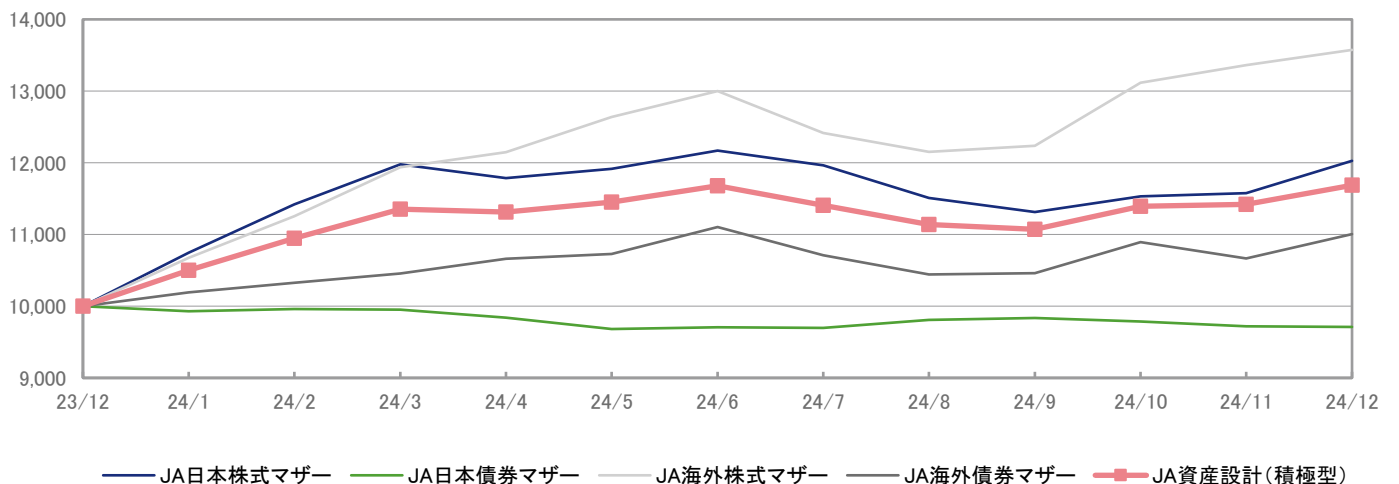
■ 資産設計ファンド(安定型)



■ 資産設計ファンド(成長型)



■ 資産設計ファンド(積極型)



※1 スタート(1年前応答月末)を10,000として指数化したものです。

※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

マンスリーレポート

JA資産設計ファンド(安定型、成長型、積極型) 販売用資料

追加型投信／内外／資産複合

商品の特色

■JA日本株式、JA日本債券、JA海外株式、JA海外債券の各マザーファンドを主要投資対象とし、各ファンド毎に予め定められた基本配分比率に基づき分散投資を行います。

	JA日本株式マザーファンド	JA日本債券マザーファンド	JA海外株式マザーファンド	JA海外債券マザーファンド	その他(短期資産)
JA資産設計ファンド(安定型)	20%	60%	10%	5%	5%
JA資産設計ファンド(成長型)	35%	35%	15%	10%	5%
JA資産設計ファンド(積極型)	45%	15%	25%	10%	5%

■当社が独自に指数化した合成インデックスをベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

	配当込みTOPIX	NOMURA－BPI総合	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、当社円換算ベース)	FTSE世界国債インデックス (除く日本、当社円換算ベース)	短期資産
JA資産設計ファンド(安定型)	20%	60%	10%	5%	5%
JA資産設計ファンド(成長型)	35%	35%	15%	10%	5%
JA資産設計ファンド(積極型)	45%	15%	25%	10%	5%

■実質組入外貨建資産については、為替ヘッジは原則として行いません。

■ お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:2001年2月20日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年11月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年11月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年11月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象外です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。
スイッチング	各ファンド間でスイッチングが可能です。 スイッチングとは、各ファンド間の乗換えのことで、ファンドの換金と同時に、当該換金代金をもって他のファンドの購入の申込みをする場合をいいます。 申込単位は、1口単位で、購入時手数料はかかりませんが、換金するファンドには、信託財産留保額と税金がかかります。

※確定拠出年金制度に基づく申込の場合は、取扱いが一部異なる場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号
一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- ： ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウェリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウェリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外株式マザーファンドおよびJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用等の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 最終ページをご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金 および一部解約金の支払い等を行います。

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主にわが国の株式、債券、日本を除く世界先進各国の株式および日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、国内、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、国内、海外株価の下落による組入れ株式の価格の下落、組入公社債や組入株式の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	<通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。 ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.50%)です。 <確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に以下の率を乗じた額を計上します。 安定型:年1.10%(税抜1.00%) 成長型:年1.21%(税抜1.10%) 積極型:年1.43%(税抜1.30%) 毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。 毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。))が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見通しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式や公社債などの値動きの生じる証券(外貨建証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくことになります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- 配当込みTOPIXの指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。))の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- NOMURA-BPI総合は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は同社に帰属します。なお、同社は、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
- MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、当社円換算ベース)はMSCI Inc.が開発したMSCI KOKUSAI・インデックス(米ドルベース)をもとに、MSCI Inc.の許諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。
このレポートには、MSCI Inc.、その関連会社、または情報プロバイダー(以下、総称して「MSCI関係者」といいます。))から提供された情報(以下、総称して「情報」といいます。))が含まれており、スコア、評価、その他の指標の計算等に使用されている可能性があります。情報は、内部使用のみを目的としており、いかなる形式においても複製/再配布は認められません。また、金融商品、製品、インデックスの基礎または構成要素としての使用は認められません。MSCI当事者は、このレポートのいかなるデータまたは情報のオリジナル性、正確性および完全性を保証するものではなく、商品性および特定目的への適合性を含め、明示的または黙示的なすべての保証を明示的に否認します。情報は、投資に関する助言または投資判断を行うための推奨(または行わない)を目的とするものではなく、そのようなものに依拠することはできず、また、将来のパフォーマンス、分析、予測または予測の指標または保証として解釈することもできません。MSCI関係者は、このレポートに含まれる情報やデータの、またはそれに関連する過誤、省略等に対して、責任を負いません。また、たとえ直接的損害、間接的損害、特別損害、懲罰的損害、拡大的損害その他のあらゆる損害(逸失利益を含む。))につき、その可能性が通知された場合について、いかなる場合でも、一切の責任を負いません。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。

取扱い販売会社情報一覧表

※ 販売会社は今後変更となる場合、また、下記以外にもお取り扱いを行っている販売会社がある場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申し込みを停止している場合もあります。
 詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品取引業協会	備考
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	
JAバンク（JA/信連/農林中金）	お取り扱いについては、委託会社（農林中金全共連アセットマネジメント株式会社）までお問い合わせください。 （注）一部のJAバンクでは、お取り扱いがない場合がございます。					

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。
 ■ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
 ホームページ: <https://www.ja-asset.co.jp/>
 フリーダイヤル: 0120-439-244 (受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申し込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は販売会社へお申し出ください。